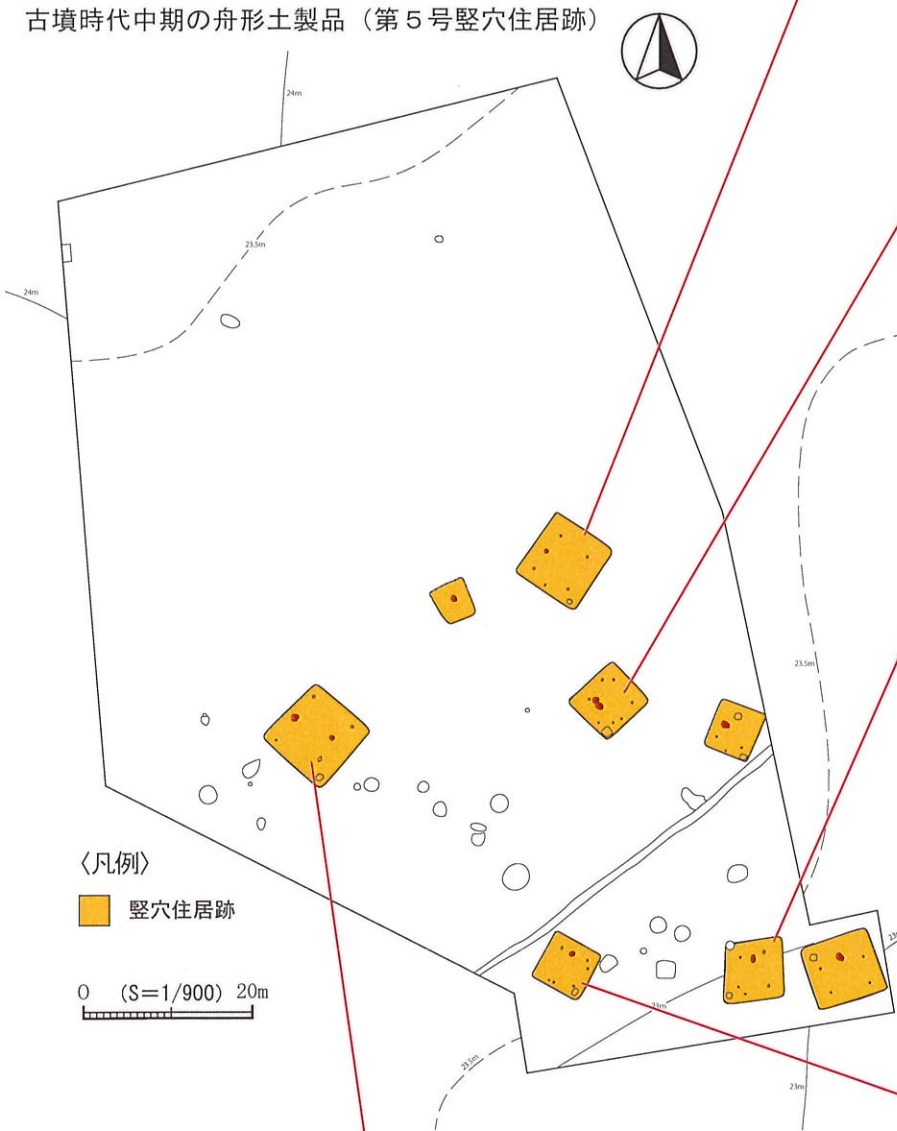


## 上河原崎前山遺跡



古墳時代中期の舟形土製品（第5号竪穴住居跡）



最も大きい竪穴住居跡・一辺約9m  
（第4号竪穴住居跡）



多数の土器が出土した貯蔵穴  
（第1号竪穴住居跡）



コーナー部の土器と炭化材  
（第3号竪穴住居跡）



遺物出土状況（第5号竪穴住居跡）



壁際に散らばっている土玉  
（第6号竪穴住居跡）



石製の勾玉、ガラス製の白玉

## 元中北東藤四郎遺跡（もとなかきたひがしとうしろういせき）

所在地：つくば市上河原崎元中北字東藤四郎 58-2 番地ほか  
調査期間：令和元年11月1日～令和2年3月31日  
調査面積：23,557 m<sup>2</sup>  
委託者：茨城県土木事務所つくば支所  
調査原因：上河原崎・中西特定土地区画整理事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（つくば上河原崎事務所）  
Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>



### 1 遺跡の概要

元中北東藤四郎遺跡は、つくば市南西部、西谷田川左岸の標高約20mの台地上に立地しています。当遺跡の周辺には、元宮本前山遺跡や下河原崎谷中台遺跡などをはじめとする古墳時代の遺跡が点在し、中でも古墳時代中期（約1,600年前）の集落跡が多く確認されています。先に調査を行った上河原崎前山遺跡と同じく、当遺跡の調査でも古墳時代中期の集落跡が確認でき、両遺跡を含む台地上に広がっていた集落の一部と考えられます。



遺跡位置図（「いばらきデジタルまっぷ」に一部加筆）

### 2 調査の成果

今回の調査では、現在までに竪穴住居跡67軒、土坑124基、溝跡2条、石器集中地点2か所などを確認しました。遺物は、土師器の椀・高坏・埴・甕・壺や、マツリで用いる石製模造品の剣形・勾玉・有孔円板など、古墳時代中期を代表するものが多数出土しました。

確認した住居跡は全て古墳時代中期のもので、上河原崎前山遺跡と同様、短期間に営まれた集落であったことが明らかになりました。両遺跡の集落は、存続時期がほぼ同時期であることから相互に関連しあっていたことが想定されます。古墳時代中期のみの短期間の集落でありながら、住居が60軒を超えることは稀であり、その他の遺跡と比較して大規模な集落であったことがうかがえます。



空からみた元中北東藤四郎遺跡と上河原崎前山遺跡



竪穴住居跡に残された多量の土器（第21号竪穴住居跡）

# 元中北東藤四郎遺跡



貯蔵穴から出土した甕と壺（第 15 号竪穴住居跡）



土器や炭が捨てられた貯蔵穴（第 17 号竪穴住居跡）



割れた土器の破片が多い第 26 号竪穴住居跡



屋根が焼け落ちた竪穴住居跡（第 27 号竪穴住居跡）



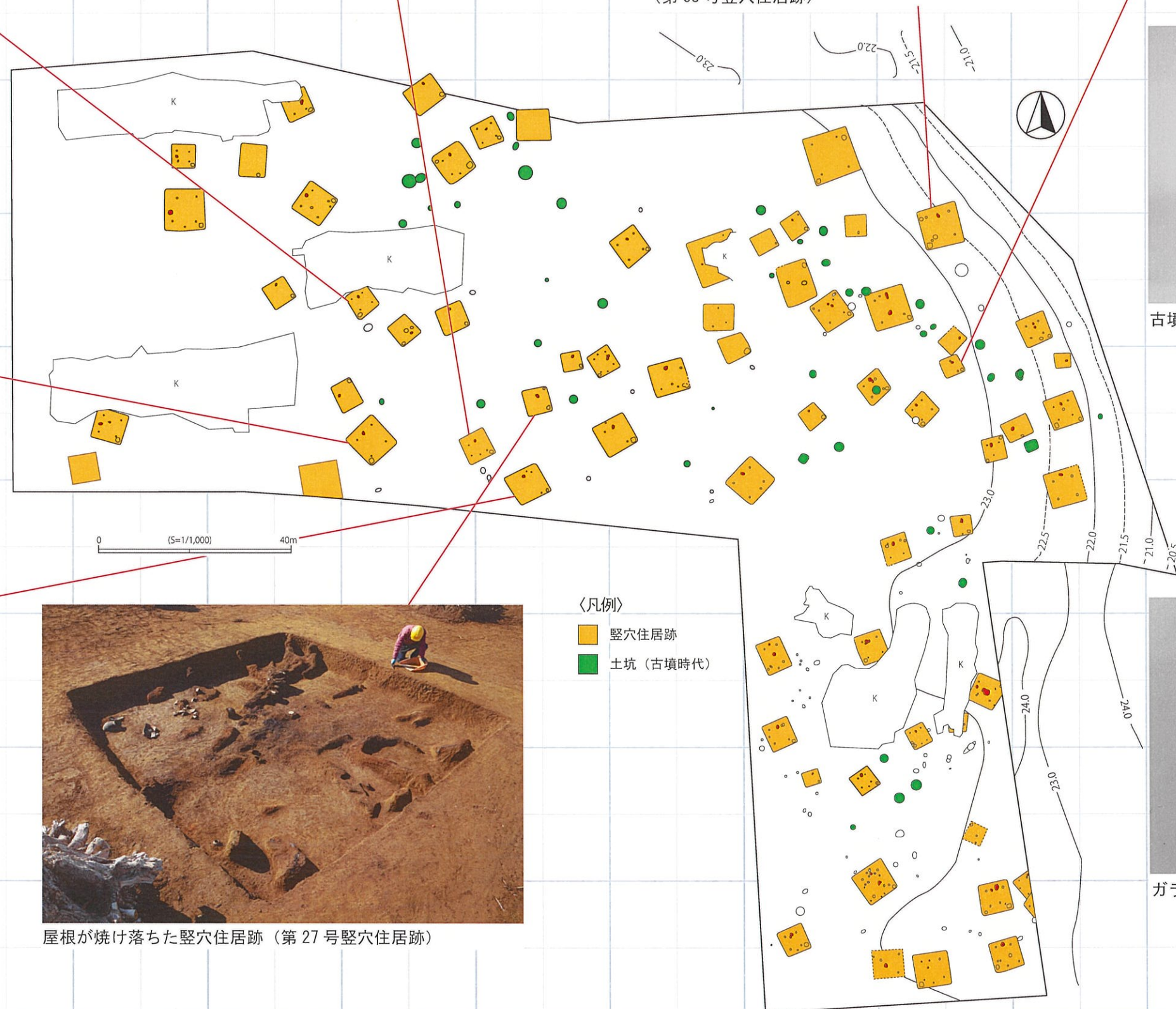
多量の土器が出土した第 21 号竪穴住居跡



一辺 8 m を超える大きな竪穴住居跡  
（第 63 号竪穴住居跡）



重なりあう焼土や炭化材（第 60 号竪穴住居跡）



古墳時代中期の土器



ガラス玉・石製紡錘車・石製模造品

この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではないので、引用・掲載はご遠慮願います。

